

令和元年度の管理運営状況（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

指定管理者：東京スタジアムグループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点（具体的に）、改善点等																								
管理状況	適正な管理の履行	施設の提供について	<p>○東京2020大会のテストイベント（バドミントン、近代五種）やRWC2019TM（ホスピタリティスペースとして利用）等の国際的大会を開催した。総合スポーツ施設として多様なスポーツイベントを開催しつつ（開催実績：メイン・サブアリーナ合計300回）、スポーツの利用希望がない日には、大型コンサート等の商業イベントを誘致することで（開催実績：29回）、スポーツの振興と収益性の確保に努めた。</p> <p>○RWC2019TMや延期された東京2020大会の開催準備においては、都や両組織委員会の多くの視察や打合せに対応するとともに、施設管理者としての知見を踏まえ、円滑な大会運営が行われるよう助言した。</p>																								
	法令等の遵守	環境配慮への取組	<p>○施設においては、様々な再生可能エネルギー・省エネルギー技術等を活用している。また、節水に関しては、雨水再利用により年間約3,400m³の上水の節約、プールでは水抜きで発生する排水を貯留し、3,000m³を中水として利用している。</p>																								
	安全性の確保	防災への配慮・緊急事態策	<p>○新型コロナウイルス感染症の発生以降、利用者に手指消毒やマスク着用をお願いし、その後、都から施設の利用自粛や休館の要請が出された際は、職員が手分けして、予約団体等に丁寧に説明を行い、トラブルが生じないように対処した。</p> <p>○6月及び11月にグループ各社参加の下、一体的な警備・防災体制を構築している隣接の味の素スタジアムと合同防災訓練を実施し、発災時の役割・対応を再確認した。</p>																								
事業効果	利用の状況	利用状況	<p>○施設全体で886,838人（団体利用727,494人、個人利用159,344人）のお客様にご来場いただいた。</p> <p>○RWC2019TM開催期間中の一部施設の休館や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による利用自粛・休館等により施設利用可能な日数が前年度よりも減少したものの、メイン・サブアリーナの利用率については前年並み、ジム・プールの一日当たり利用者数については、前年度を上回る実績を確保した。また、ジム・プールについては、利用者に占める月額フリーパス会員の比率が前年度より増加しており、ジム・プールの継続的な利用者が着実に増加している。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3"><使用率（施設別）></th> <th colspan="3"><一日当たり利用者数（利用形態別）></th> </tr> <tr> <th></th> <th>メインアリーナ</th> <th>サブアリーナ</th> <th></th> <th>利用チケット</th> <th>月額フリーパス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018年度</td> <td>77.2%</td> <td>81.5%</td> <td>2018年度</td> <td>397人</td> <td>82人</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>86.6%</td> <td>77.5%</td> <td>2019年度</td> <td>448人</td> <td>102人</td> </tr> </tbody> </table>	<使用率（施設別）>			<一日当たり利用者数（利用形態別）>				メインアリーナ	サブアリーナ		利用チケット	月額フリーパス	2018年度	77.2%	81.5%	2018年度	397人	82人	2019年度	86.6%	77.5%	2019年度	448人	102人
	<使用率（施設別）>			<一日当たり利用者数（利用形態別）>																							
		メインアリーナ	サブアリーナ		利用チケット	月額フリーパス																					
	2018年度	77.2%	81.5%	2018年度	397人	82人																					
	2019年度	86.6%	77.5%	2019年度	448人	102人																					
	スポーツ振興事業等の実施状況	<p>○スポーツ振興事業については、17事業を実施し、延べ2,133人にご参加いただいた。様々な世代やライフステージに属する人々にスポーツに親しんでいただくため、各事業の対象者にとって参加しやすい日時を実施日として設定した。また、多摩障害者スポーツセンターと連携し、同センタースタッフによる障がい者への水泳のワンポイントレッスンを新規に開始した。</p> <p>○地域貢献事業については、18事業を実施し、延べ14,503人にご参加いただいた。地元三市とも連携の上、RWC2019や東京2020大会の競技体験イベント等を開催するとともに、来場者の多い「味スタ感謝デー」に福島県奥会津地方の特産品販売等を行うPRブースを設け、被災地の復興を支援した。</p>																									
	事業の実施状況	<p>○ジム・プールにおいて、週に51本のレッスンプログラムを実施し（スタジオ等41本、プール10本）、延べ54,020人にご参加いただいた。提供するプログラムについては、利用者のニーズを踏まえて見直しを行い、より多くの方にご参加いただけるよう努めた。</p>																									
	サービス向上に向けた取組	<p>○主催者の要望を踏まえ、年末年始休館日や各月の休館日についても、設備の点検業務に影響が生じないよう事前に調整の上で施設の貸出を行い、東京2020大会のテストイベントや、全国レベルの大会（春高バレー、全国高校バスケ等）、コンサート等の開催を可能にした。</p>																									
	利用者ニーズの把握	<p>○館内設置に設置したご意見箱や利用者アンケートにより、利用者の意見・要望を把握している。寄せられた要望を施設内で共有し、快適に施設を利用していただけよう施設運営に役立てている。ジム・プールの利用者アンケートでは、77.8%がスタッフの対応について「十分満足」と回答するなど、総じて施設利用者の満足度は高くなっている。</p>																									
	利用促進への取組	<p>○3か月ごとにイベントパンフレットを作成し、近隣自治体や近隣駅設置のラック等を通じ周知している。また、施設のHPに比べ、個別事業について作成するチラシ等も活用し、事業を積極的に周知した。</p>																									

【作成上の注意事項】

- ・挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載します。